

2024年度東京理科大学における自己点検・評価結果の概要

2024年度における自己点検・評価結果(報告書)の概要を公表します。各基準、点検評価項目における詳細な点検・評価内容及びその結果等は、「2024年度東京理科大学自己点検・評価報告書」をご確認ください。

[補足] 点検結果欄:適切と判断した場合は「○」を、適切と判断するが一部改善事項が生じている場合は「△」を付しています。

改善事項の概要欄:点検結果欄に△を付した場合は、生じている改善事項の概要を明示しています。

2023年度以前の未改善事項(2025年度に継続して改善を実施)への対応結果は本概要に含んでいません(報告書をご覧ください)。

【基準1】理念・目的

点検・評価項目		点検結果	改善事項の概要	改善結果	改善結果の概要
①	目的の設定・公表 大学の理念・目的を適切に設定し、公表していること。	△	本学の理念・目的の体系性とその内容の学生への周知と認知向上について、全学的な対応が必要	△	学生との意見交換会で把握したことを活用し、コンテンツ作りや具体的な周知方法の検討を進めている。
②	計画・施策等の設定 大学として中・長期の計画その他の諸施策を策定していること。	△	「中期計画2026」について進捗が計画どおりでない施策の整理等と、これに対する支援等の検討が必要	○	中期計画の完了に向け、2025年度に、学長室において教学側の施策に関する「5年間の総括」を行った。
長所・特色:					
建学の精神や理念を具現化した「実力主義」の教育方針は広く認知されている。近年は、この方針を再定義して正課の教育プログラムとして具体化し、時代に応じた実力主義の資質・能力を学生に涵養している。これは伝統を受け継ぎつつ時代に即して変革する姿勢の表れといえる。具体的なプログラム構築により、学生が建学の精神や教育研究理念をより意識する効果をもたらしている。					
長所・特色に関連する本学ホームページ:					
新実力主義教育プログラム			https://www.tus.ac.jp/academics/faculty/power/pg/		

【基準2】内部質保証

点検・評価項目		点検結果	改善事項の概要	改善結果	改善結果の概要
①	内部質保証の方針の設定、内部質保証システムの整備と機能 内部質保証のための方針を適切に設定し、内部質保証システムを整備し適切に機能させていること。	○	-		
②	大学の諸活動の公表 大学の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしていること。	△	学生の学習実態や学習上の成果に関わる情報の公表方法を工夫し、幅広いステークホルダーの理解促進に努めることが必要	△	各種アンケート調査の結果を分かりやすく公表することについて、関係部局との調整等を進めている。
③	内部質保証システムの点検・評価、改善・向上 内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に向けた取り組みを行っていること。	○	-		
長所・特色:					
内部質保証システムは、「大学質保証推進委員会」が中心となり自己点検・評価から改善までを確実に実施している。委員会は、学内者のほか学外有識者2名を加えて構成し、隔年の外部評価と併せて客観的な評価体制を構築し、成果を上げている。また、社会への説明責任を果たすため積極的な情報公表を行っている。					
長所・特色に関連する本学ホームページ:					
内部質保証			https://www.tus.ac.jp/about/data/guarantee/overview/		

【基準3】教育研究組織

点検・評価項目		点検結果	改善事項の概要	改善結果	改善結果の概要
①	各組織の設置状況 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附属研究所、センターその他の組織の設置状況が適切であること。	○	-		
②	教育研究組織の点検・評価、改善・向上 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に向けて取り組んでいること。	○	-		
長所・特色:					
教育研究の基盤となる各学部・学科、各研究科・専攻を設置し、理工系総合大学として伝統を継承しつつも、学部・研究科の枠を超えた全学的な視点から教育研究の推進及び改善・向上に向けた取り組みを行っている。構想・計画段階ではあるが、神楽坂キャンパスでは理学部第一部に国内唯一となる「科学コミュニケーション学科」の設置、野田キャンパスでは最先端の情報科学技術分野の教育・研究を推進するため「創域情報学部情報理工学科」の設置を予定している。					
長所・特色に関連する本学ホームページ:					
新学部・新学科設置に関するホームページ			https://www.tus.ac.jp/reorganization/2026/		

【基準4】教育課程・学習成果

点検・評価項目		点検結果	改善事項の概要	改善結果	改善結果の概要
①	達成すべき学習成果の明示 教育・学習の基本的なあり方を示していること。	○	-		
②	授業科目の開設と教育課程の体系性 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	○	-		
③	授業形態、学生指導・支援 学習成果の達成のために適切な授業形態、方法を取り、学生が意欲的かつ効果的に学修を進めるための指導や支援を十分に行っていること。	△	卒業生・進路先企業に対するアンケートで挙げた課題(英語によるコミュニケーション、異文化理解・国際的な視野)の改善が必要	○ (一部完了)	・英語によるコミュニケーションについて、アンケートによるニーズの把握を踏まえ、具体化の検討を進めている。 ・異文化理解・国際的な視野について、既存科目の再編と連動させながら、新たな授業科目の準備を完了した。
④	成績評価、単位認定、学位授与 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。	○	-		
⑤	学習成果の把握と評価 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。	△	・学修ポートフォリオシステムのシステム改修や運用方法の具体的な改善策の検討を通じて活用率の向上が必要 ・学習成果だけでなく学生の満足度や学修時間に関する把握・評価を行い、その結果を情報公開できるよう体制を整える必要	○ (一部完了)	・学修ポートフォリオシステムを、学生にも教員にも活用しやすいものとするための機能改修を行った。 ・アンケート調査の結果を、学生へのフィードバック形式に整理して情報公開することに向けて、準備を進めている。
長所・特色:					
教育課程の特色として、「中期計画2026」での計画に基づいて教育支援機構での検討を進め、2024年度から「新実力主義」教育プログラムを開始した。SDGs教育やデザインシンキング科目の開講、自校教育、領域横断型プログラムの4つの取り組みを進め、学生へ周知している。また、遠隔授業では国のガイドライン等に基づくチェック項目を作成し、事前審査と効果検証を開始して教員自身の点検を可能にした。授業実施においては、学位授与方針等の達成に向け、講義・実験・演習の効果的な組み合わせや、適切で効率的な授業形態の選択を定めている。国際化の面では、カリフォルニア大学デビス校1年留学プログラムで毎年単位互換表を更新し、最新の状況で単位認定できる体制を整えている。					
長所・特色に関連する本学ホームページ:					
中期計画2026			https://www.tus.ac.jp/about/features/plan2026/		
新実力主義教育プログラム			https://www.tus.ac.jp/academics/faculty/power_pg/		

【基準5】学生の受け入れ

点検・評価項目	点検結果	改善事項の概要	改善結果	改善結果の概要
① 入学者受入れの方針に基づく入学者選抜制度・体制の整備と公正な実施 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。	○	-		
② 定員管理 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。	△	収容定員充足率または入学定員充足率が、認証評価機関の示す目安に抵触している学科、研究科について、定員管理の改善が必要	○	課題であった学科、研究科において、改善活動の結果、その多くは、認証評価機関の示す目安に収まった。一部の研究科では、入学定員の見直し(増員)を決定し、根本的な改善に向けた施策を推進している。
③ 学生受入れの点検・評価、改善・向上 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	△	総合型選抜の志願者が減少した原因を分析し現状把握したうえで、入試制度見直しの検討と入試広報活動の拡充が必要	○	入学者の属性把握のほか、総合型選抜の学内での位置付けを整理するための各学科への意見聴取を行い、それを踏まえて見直しや改善対応を行った。

長所・特色:

理事会と大学が合同で運営する入試改革推進委員会において、入試結果や収容定員充足率等の状況を確認し、経営面での学生数確保と、教学面でのポリシーに合致する学生の確保という双方の視点から課題を共有して改善策を検討している。これにより、法人・大学が一体となった入試改革を推進することができている。

長所・特色に関連する本学ホームページ:

入学者受入れの方針

<https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>

【基準6】教員・教員組織

点検・評価項目	点検結果	改善事項の概要	改善結果	改善結果の概要
① 教員組織の編制方針に基づく教員組織の編成 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的かつ従前に展開できる教員組織を編成し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。	△	・編制方針の検証が必要 ・クロスアポイントメント制度について、規程・要項等の検証が必要	○	・法改正等を踏まえた編制方針の見直しを行い、その結果を公表している。 ・導入初年度の実績を踏まえて検証した結果、改善すべき課題を把握した。
② 教員の募集、採用、昇任等の適切な実施 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。	○	-		
③ 教育等改善と教員の資質向上 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	△	授業TAの効果と問題点の検証と、研修・運用の改善が必要	○	導入初年度の実績や、各学科からの意見聴取を踏まえて検証を行い、情報共有の希望のあった事項(導入した学科の感じるメリット・デメリットの共有)について対応した。
④ 教員組織の点検・評価、改善・向上 教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	○	-		

長所・特色:

2024年度は学部学科再編に伴う教員採用や配置換え、クロスアポイントメント制度の制定、業績評価基準の改定を行い、教員組織の適切な編制と活性化を図った。また、教育支援機構教育DX推進センターを中心としたFD活動では、授業改善のためのアンケートの結果を活用して評価の高い授業を選定しており、それに基づく授業参観の対象を全教職員に拡大することで、教育の質を向上させている。研究支援では、若手育成や競争的資金の申請支援、産官学連携を推進したほか、学長主導でビジョンを策定しJ-PEAKSへ申請した。

長所・特色に関連する本学ホームページ:

教育DX推進センターホームページ(授業改善の取組み)

https://www.tus.ac.jp/fd/series_category/questionnaire/

【基準7】学生支援

点検・評価項目		点検結果	改善事項の概要	改善結果	改善結果の概要
①	学生支援の方針に基づく学生支援体制の整備と実施 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。	○	-		
③	学生支援の点検・評価、改善・向上 学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	△	進路先企業に対するアンケートで挙げた課題の改善が必要(英語によるコミュニケーション能力、コミュニケーション能力)	△	・英語によるコミュニケーション能力について、改善策を検討するため、学生・教員対象のアンケート調査を行い、ニーズの把握を行った。今後、これを活用しながら取組みを進める。 ・コミュニケーション能力を高めるため、学生間の交流促進に関する支援を行った。
長所・特色:					
<p>本学独自の奨学金制度について例年検証を行っており、近年は博士課程の学生に向けた経済支援を中心としていたところ、学生の大学院進学率が非常に高いことから修士課程の学生にその対象を広げ、理工系大学ならではの学生支援体制を強化している。学習相談室では先輩学生を配置し、初年次学生に対し数学や物理など基礎科目の疑問解消や学習方法の助言を行っている。「学修状況アンケート」は学生の特性を早期・定期的に把握し、大学から個人へ改善に向けた介入を行う点に独自性がある。また、増加する留学生に対し、学生有志によるピア・サポートへ移行したことで支援効果を向上させた。ICT対応ではITサービスデスクの問合せを分析してFAQを更新しているほか、AIチャットボットを設置して24時間いつでも質問できる体制を整えている。</p>					
長所・特色に関連する本学ホームページ:					
奨学金制度		https://www.tus.ac.jp/tuslife/campuslife/scholarship/			
外国人留学生支援		https://www.tus.ac.jp/tuslife/foreignstudents/universitylife/			

【基準8】教育研究等環境

点検・評価項目		点検結果	改善事項の概要	改善結果	改善結果の概要
①	教育研究等環境の整備に関する方針に基づく環境整備 教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習、教員の教育研究活動に必要な環境を適切に整備していること。	○	-		
②	図書館、学術情報サービスの提供の体制整備と機能化 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それらは適切に機能しているか。	○	-		
③	研究活動の促進 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。	○	-		
④	教育研究等環境の点検・評価、改善・向上 教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し改善・向上に向けて取り組んでいること。	○	-		
長所・特色:					
<p>環境安全管理では各キャンパスに「環境安全センター」を設置し、安全指導や危険物管理に加え、学科主催の安全教育への参加や教科書執筆など「教育」の一部も担うことで安全な環境を提供している。全学的な学生のノートパソコン必携化(BYOD)は、全国において全学的に実施している大学は珍しく、高度な情報通信技術の活用能力を有する人材育成の一端を担っている。これに対応するため、全キャンパスのネットワーク回線を冗長化して安定運用を行っている。4つの地区図書館の資料はシステムで一元管理しており、学内共有化やWeb予約等のサービスを提供している。</p>					
長所・特色に関連する本学ホームページ:					
環境安全センター		https://www.rs.kagu.tus.ac.jp/env_pres/index.htm			
(重要:2025年度入学予定の皆様)「ノートパソコンの必携(BYOD)」について		https://www.tus.ac.jp/today/archive/20241204_8015.html			

【基準9】社会連携・社会貢献

点検・評価項目		点検結果	改善事項の概要	改善結果	改善結果の概要
①	社会連携・社会貢献に関する方針に基づく取組み 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき取組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。	○	-		
②	社会連携・社会貢献活動の点検・評価、改善・向上 社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	○	-		
長所・特色:					
<p>社会貢献・連携は「中期計画2026」において主要項目の1つに位置づけている。本学の教育研究力を活かし、各キャンパスの周辺地域の発展及び理学の普及に資する以下のような連携活動をとおり、各キャンパスが地域の社会の軸となり、その持続的な発展に貢献することを目指しており、キャンパスを軸とした中期的な方針を明確化している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創域理工学研究科に設置しているサステイナブルアーバンシティセンターにおける企業、中・高等学校との取組み ・理数教育研究センターにおける「算数／数学授業の達人大賞」「理科授業の達人大賞」「宇宙教育プログラム」等 					
長所・特色に関連する本学ホームページ:					
理数教育研究センター		https://www.tus.ac.jp/mse/			
サステイナブルアーバンシティセンター		https://dept.tus.ac.jp/csuc/			

【基準10(1)】大学運営・財務(1) 大学運営

点検・評価項目		点検結果	改善事項の概要	改善結果	改善結果の概要
①	大学運営に関する方針に基づく組織の設置、適切な大学運営 大学運営に関する方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示していること。また、それに基づいた適切な大学運営を行っていること。加えて、大学を設置・管理する法人の運営が適切であること。	○	-		
②	予算編成、予算執行の適切性 予算編成及び予算執行を適切に行っていること。	○	-		
③	大学運営等に係る事務組織の整備と機能化 法人及び大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な組織を設け、人員を配置していること。また、その組織が適切に機能していること。	○	-		
④	大学運営の点検・評価、改善・向上 大学運営に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善向上に向けて取り組んでいること。	○	-		
長所・特色:					
<p>教育研究費予算は、配分から執行に係る全ての権限を理事長から学長に負託し、最大限の有効活用と活動の活性化・安定化を図っている。事務職員の人事制度は、各職員の持つ力を最大限に発揮させ能力を開発し、組織を活性化することで本学の発展に貢献することを基本的な考えとして定めた。個人目標を建学の精神の具現化に繋がるものと整理した上で、①各役職毎の果たすべき役割である「役割定義」や、役割を果たすための職務遂行能力であり、評価要素でもある「職能要件」について、目標達成への意識浸透を踏まえたものに変更、②職場全体の力で課題解決に取り組む風土を醸成し、革新的、先駆的な取組みにチャレンジする人材を育成していくべく、プロジェクトに対する評価の方式を変更、③所属部署における減員等の状況においても円滑な業務遂行に貢献した者に対する加点要素の創設など、新たな考え方を取入れたものとした。</p>					
長所・特色に関連する本学ホームページ:					
専任職員採用		https://www.tus.ac.jp/recruitment/staff-list/expert/			

【基準10(2)】 大学運営・財務(2) 財務

点検・評価項目		点検結果	改善事項の概要	改善結果	改善結果の概要
①	中・長期の財政計画の策定 教育研究活動を安定して遂行するため、中・長期の財政計画を適切に策定しているか。	○	-		
②	安定的な財務基盤の確立 教育研究活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか。	○	-		
長所・特色:					
<p>長期ビジョンや中期計画などの中・長期の計画を念頭に、これに紐づく財政計画・財務シミュレーションを精緻に作成し、これらを判断材料として継続的に活用しながら、キャンパスの施設設備投資や学費改定といった法人・大学運営に関わる重要事項の意思決定に活用する体制を整備している。また、昨年までと同様、オープンカレッジ事業やネーミングライツ・パートナー事業等の取組みを他大学に先駆けて多数推進するなど、収入源の多様化に努めており、学生納付金に過度に依存しない取組みを進めている。</p>					
長所・特色に関連する本学ホームページ:					
収支報告(予算、決算)			https://www.tus.ac.jp/about/data/project/budget/		

※このほか、2023年度以前の自己点検・評価活動により改善が必要であると判断した事項(改善事項)のうち、2024年度末までに改善活動に取組んだが完了していない事項についても「2024年度自己点検・評価報告書」に盛り込み、継続して改善活動を行うこととしています。